

第3分科会

美術・隔たり・場

分科会概要：

美術表現とは、多分に何らかの物質性にその多くを負っているものである。また、たとえ表現そのものが概念的/情動的なものであったとしても、作品作りのプロセスとは概念の流路そのものを考えたり、組み替えたり、ずらしたりすることに意味を持たせるものである。そのような美術という分野において、遠隔授業という非物質的かつ縛られた情報流路の中での教育実践を迫られる状況から、個々の現場はどんな困難を感じ、あるいは新たな可能性を見出したのか。美術教育がどう変質したのか、これからどう変質して行くのか。コロナという未曾有の事態を経た上で、美術教育がその中から見出した知見を共有する場としたい。

<プログラム>

- 14：00 趣旨説明
京都精華大学 芸術学部 講師 宮永 亮 氏
- 14：10 事例紹介1・問いかけ
京都芸術大学 芸術学部 講師 山城 大督 氏
- 14：20 ディスカッション
- 14：35 事例紹介2・問いかけ
京都精華大学 芸術学部 講師 宮永 亮 氏
- 14：45 ディスカッション
- 15：00 休憩
- 15：10 事例紹介3・問いかけ
東京藝術大学 美術学部 非常勤講師 村山 悟郎 氏
- 15：20 ディスカッション
- 15：35 質疑応答及び、登壇者同士でのコメント、総合ディスカッション
- 16：00 分科会終了

<交流会> ※交流会への参加は任意です

16：00～16：30

本分科会は美術領域の教員に登壇者を絞って開催することもあり、報告を聞くだけでは中々難解な部分もあるかもしれません。

参加者の方々にはざっくばらんにご質問を頂き、領域横断的な交流な場としたいと思います。